

U D L M

5

vol.319

May 31st
2022

あのまちの「色」



p.2-3

思い思いに地図を塗る

p.4

“五人五色”新 B4 メンバー紹介

思い思いに地図を塗る

真っ白な地図を渡されると、私たちは自分なりの感覚で塗り分ける。そこには、自ずと個人が有するまちに対するイメージが表れてくるのではないだろうか。

それぞれが異なる“まちの見方”をし、そこからそれぞれの“まちのイメージ”を形成する。このように個人が漠然と抱いているまちのイメージを「色」によって可視化してみたい。

今回は、都市デザイン研究室メンバーで本郷 - 上野 - 谷中 - 根津を歩き、各人が捉えたまちの「色」で地図を塗り分けてみた。

01 まちの「色」は何の色？

それぞれのまちのイメージは何によって形成されるのか。1つのヒントとして、今回収集したまちの「色」が何によって抽出されたのか、を見てみる。

例えば、同じ種類の対象物を各エリアで比較してそれぞれのまちの「色」として抽出する人がいた。(ex. 植栽、建物のつくり など) あるいは、自身にとって馴染み深く思い入れがあるもの (ex. 赤門、仲町通り) や、逆に珍しいもの (ex. 緑のアーチ、路地や急な坂) をまちの「色」として捉える人もいる。

またそれぞれのまちで、個人のイメージに影響を与えているまちの要素にも特徴が見られた。本郷や上野は大多数が同じ対象物、特にスケールの大きいものに注目していたが、それにより抽出された色は多様である。一方で谷中や根津は、それぞれが細かなものに注目しており、その種類が多様であった。

今回の企画では、そのまちのイメージ色が表れる風景を収集したために何らかの対象物が「色」を決める要素となっている。しかし、このような具体的対象物のほかにも、その場所と結びついた個人の記憶なども合わさることでより複雑で多様なまちの「色」が表れてくるのかもしれない。



02 色の変化＝まちの境界？

まちを歩く時、その境界を私たちはどのように認識しているのだろうか。

今回の企画では参加者には明確なエリア境界を示さず、各エリア1-2枚まちのイメージ色が表れる風景を選定してもらったため、同じ風景でも違うエリアのものとして挙げられているものがあった。このことから正確な位置情報以上に個人のイメージが境界の認識に影響を与えていると言えよう。

「本郷」のえんじ色のレンガ塀や赤門、サインが徐々に無彩色になっていくと「湯島」に、そこから鮮やかな看板が表れてくると「上野」、再び彩度が下がり自然色が目につき始めるとそこは「谷中」で、そこに商店の看板や鳥居など高彩度の色が増えてくると「根津」……

もしかすると、自然と「色」の切り替わる地点を私たちはまちの境界として認識しているのかもしれない。

03 まちのパーソナルカラー？

パーソナルカラー、とはその人の生まれ持った身体の色と雰囲気が調和した色を指し、似合う/似合わないの指標として注目されている。

そして地図を見ると、本郷は赤門やレンガのえんじ色、上野は看板の鮮やかな色、谷中は木や石などの自然色、根津は草木の緑色、というように、そのまちを構成する要素から抽出された特定の色が強くそれぞれのまちのイメージ色として表れていることがわかる。

人間と同様に、まちの持つ「色」は確かに存在しているのだろう。それらに調和するパーソナルカラーを設計・デザイン側は意識する必要があるようだ。

“五人五色”新 B4 メンバー紹介

今月、学部4年生の研究室配属が決まり、都市デザイン研究室には新たに5名のメンバーが加わった。彼らは研究室の未来をどう彩ってくれるのだろうか。新メンバー五人五色の素顔を覗いてみよう。

- ①出身地
- ②都市デザイン研究室を選んだ理由
- ③好きなまち・都市とその理由
- ④自分を色で表すとしたら何色？
- ⑤この一年の意気込み



鈴木元太 Genta SUZUKI

- ①北海道旭川市、鳥根県津和野町
- ②生活だけでなく**設計**を通して都市や都市社会と向き合いたかったから。
- ③鳥根県**津和野町** / 神社や城跡から町を見渡せて、箱庭みたいに見えるから。
- ④**薄緑** / 落ち着いた色が好きだから。
- ⑤「たくさん本読みます！」

島田楓 Kaede SHIMADA

- ①神奈川県横浜市
- ②たくさんのひとの考えに触れながら**アイデアをかたち**にしたいから。
- ③**神楽坂** / 路地裏にあこがれつつも、表通りのおいしいお店と本屋さんをめぐる、**神田川**をながめるのがルーティンです。
- ④**緑** / よく言われるのでなんとなく
- ⑤「早寝早起き水分補給」



元吉千遥 Chiharu MOTOYOSHI

- ①愛知県名古屋市
- ②**設計・模型作り**に没頭するのが楽しかったのと、先生方**のお人柄**に惹かれたため。
- ③**ニース・フランス** / カラフルな建物とカラッと晴れた空、海沿いのプロムナードが好きです。マルシェの雑多な雰囲気と、何かよく分からない商品の説明を早口のフランス語でされるのも好き。
- ④**オレンジ** / よく笑うので！
- ⑤「自分の興味を明確にする！」



洲崎玉代 Tamayo SUSAKI

- ①メキシコシティ
- ②**デザイン**という手法への興味。また**現実の都市**をフィールドに実践と研究の両方を進めていきたいから。
- ③**下北沢** / 多様な主体と思想と活動が混在しつつも、なんとなくひとつの町としてまとまりを持っている点が面白いから。
- ④**何かしらの原色**
- ⑤「手と頭と両方動かしたい！」



山田真帆 Maho YAMADA

- ①岐阜県白川村
- ②都市工に決まった時から**ここしかない**って思っていました。
- ③**下北沢** / ディープさと再開発とのせめぎ合いが面白いから。
- ④**黄色** / 人に聞いた結果満場一致で
- ⑤「楽しむ気持ちを忘れない！」

COLUMN

POSTSCRIPT

今年度の目標として、考え・価値観を「シェア」できるような媒体にする、と先月の挨拶で述べさせていただきました。そんな思いのもと、最後の主担当となる今月号では各々のまちのイメージの『色』による可視化を試みました。この誌面によって他者の価値観を少しでも覗き見ることができた、そんな風感じていただければ幸いです。あなたならこれらのまちを何色に塗りますか？ (M2 神谷)

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



M1 初の富士吉田見学！

富士吉田PJでは、M1の新メンバーが初めて現地を訪れ、M2の先輩方の案内で下・上吉田を歩きました。富士山はすっぽり雨雲に隠れていましたが、溶岩など随所から富士山のパワーを感じました。(M1 森屋)



Peace of Beer/Light 開催

水上音楽堂と仲町通りで社会実験を行いました。音楽堂での音楽ライブではたくさんの方にご来場いただき、同時に行ったビアガーデンも常時満席と大盛況でした！不忍エールも高評価でした。(M1 橋)

BOOK OF THE MONTH



JR 上野駅
公園口
柳美里
河出文庫
2014

推薦者
M2 渡邊

上野公園の歴史、公園に集まる人たちの移り変わり、生と死、光と影が、1人の男性の人生に投影された悲しい物語。上野について知らないことがたくさんあった、と無知故に恥ずかしい気持ちになった。残り半年のPJ活動、「声なき声」に耳を傾けたい。